

## 会議録

- 会議名 令和5年度 第2回八雲町立図書館協議会
- 日時 令和6年1月17日（水） 午後5時56分～午後7時20分
- 場所 八雲町立図書館2階 集会室
- 出席委員 5名  
山中久江、中田和久、大川強、芦田 朋子、小林幸子
- 事務局 4名  
土井教育長、佐藤館長、菊地管理係長、藤本奉仕係主任
- 傍聴者 0名

### 《会議録要旨》

- ・新委員任命書交付

#### 1 開 会 **図書館長**

#### 2 挨拶 八雲町教育委員会 教育長 土井 寿彦

#### 3 自己紹介

#### 4 議 事

下記（1）、（2）までは佐藤館長が進行、（3）より会長が進行。

##### （1）【報告第1号】八雲町立図書館協議会委員の任命について

○事務局より説明。

##### （2）【議案第1号】八雲町立図書館協議会 会長・副会長の選任について

○事務局より、当日配付資料を基に図書館協議会の運営方法を説明。

○互選の結果、会長を山中久江委員、副会長を中田和久委員に決定。

～暫時休憩、新会長と事務局で議事進行について協議終了後に再開～

##### （3）【報告第2号】令和5年度 八雲町立図書館・熊石総合支所図書室利用状況について

○事務局より説明。

○質疑なし。

(4) 【報告第3号】 令和5年度 八雲町立図書館 施設利用状況について

○事務局より説明。

○質疑なし。

(5) 【報告第4号】 令和5年度 八雲町立図書館・熊石総合支所図書室  
事業実施状況について

○事務局より説明。

○質疑あり。

(委員)

来館者数の考え方について教えてほしい。報告第3号、4号の利用人数は何が異なるのか教えてほしい。重複しているものとしていないものがあるのか。

(事務局)

報告第3号は施設別の利用件数と人数、報告第4号は事業別の参加人数を示した資料である。報告第4号には集会室のフリースペースの利用などすべての事業ではなく主な事業を掲載しているため、3号と4号で重複しているものとしていないものがある。

報告第2号(1)八雲町立図書館(本館)の一番右側にある来館者数が、閲覧室利用人数と閲覧室以外の施設利用人数の合計となっており、単純な図書館(本館)の来館者数を確認する場合はこの値となる。

閲覧室の入口にはセンサーがついており、人が通る度にカウントする。閲覧室の出入りで2回通ることになるので、カウントした人数の半分が閲覧室を利用した人数としている。その閲覧室の利用者数に、視聴覚ホールなどの他の施設を利用した人数を合計したものを図書館(本館)の来館者数としている。

(6) 【報告第5号】 令和5年度 読書感想文・感想画コンクール 審査結果  
について

○事務局より説明。

○質疑なし。

(会長)

審査員として従事した委員もいるが、感想含め意見はないか。

(委員)

今回、中学生の部は審査する件数が多かった。

(委員)

今回初めて高校生部門の審査員となった。高校生がどのような本を読んでいるか、立派な文章を書かれていると感心し勉強になった。

(7) 【議案第2号】 令和5年度 八雲町教育委員会事務事業（令和4年度実施分）評価について

○事務局より事務事業評の点検と評価方法について説明。

○下記のとおり、図書館協議会にて令和4年度事業の外部評価を実施。

■図書館フェスティバル開催事業

○事務局より説明。

○質疑なし。

○外部評価の結果：二次評価A 一次評価のとおり

■おたのしみえいが・こうさく会

○事務局より説明。

○質疑あり。

(委員)

上映権とは何か。

(事務局)

著作権法により個人の利用が認められても、公に観客へ上映する際に上映権がついたものでなければ上映が認められていない。

上映権がついているものは金額も高く、人気が高いものには上映権がついていないものが多いといった傾向にあり、上映するものを選ぶ際に苦労している。

より皆さんが喜んでもらえるものを選び、今後に対応していきたい。

(委員)

このように事務事業評価をしたうえで事業を実施していることを知らなかった。

費用の評価があったが、図書館は費用対効果を求める施設ではないのではないかと思うが、図書館だけ厳しくみられているのか。

(教育長)

八雲の図書館だけでなく全ての行政が行っており、効果と費用の視点は外すことができない。

○評価について付帯意見

(委員)

視聴覚ホールについて音が大きすぎるが音量調整ができないと言われた。施設は老朽化していることから、施設の更新を含め拡充することを検討してよいのではないかと。

(委員)

視聴覚ホールのスポットライトについても故障してから直っておらず暗いまままで利用しづらい。

(教育長)

委員からの意見として重く受け止め、予算折衝を継続していきたい。

(会長)

老朽化して当たり前と思っていたが、委員の意見から継続して言い続けることが大事と思う。

○外部評価の結果：二次評価A 一次評価のとおり。

※老朽化した施設設備更新を検討のうえ事業を継続

(8) 【議案第3号】 令和6年度 読書感想文・感想画コンクール 審査委員の依頼について

○事務局より説明。

○質疑なし。

○令和6年度の当該コンクール審査委員として、図書館協議会からは山中会長、小林委員を推薦することで承認。

(9) その他

○議事以外の図書館に対する意見

「移動図書館車について」

(委員)

施設更新の話でいえば、移動図書館バスでの移動図書事業を再開してほしい。これまで要望を言い続けているが、一向に再開できていない。

現在のハイエースによる移動図書は、毎回施設の中へ本を搬入するなど職員の負担が大きいと思うし、移動図書館バスがあれば子どもたちが喜ぶので再開してほしい。

(教育長)

令和3年度に購入した移動図書館車両について、町として、バスではなくハイエースを購入することを令和2年度に判断されている。

町民の方から強く要望があるなど色々と状況が変わればと思うが、令和2年のときよりもバス購入の予算獲得は難しいと思う。

(委員)

移動図書館は小学校等どこで実施しているか。また、1ヵ月に何か所で実施されているか。

(事務局)

移動図書館は小学校、保育所、支所、商店などの施設で月1回実施しており、1ヵ月の実施個所数はおおよそ24箇所である。

(委員)

移動図書館の図書が格納されたコンテナについて、重量はどれくらいか。

(事務局)

コンテナの重さを見直しして、現在は10キロ程度としている。コンテナに積む図書を減らして軽量化した分、コンテナ数を増やしており、多いところで20個程度のコンテナを運搬している。

(委員)

ハイエースの次に購入する車両としてではなく、移動図書館バスが子どもたちに必要であるということを使い続けることが大事である。

(委員)

バスであれば一般的な運転免許証では対応できないこと、今後バスを運転できるドライバーが少なくなることが想像でき、ドライバーが見つからないなど移動図書館バスに戻すことで大変となることがあるのではないか。時代のニーズに合っているのか見極めた上で検討していかなければならないのではないか。

○事務局より、八雲ライオンズクラブ寄附経過について報告。

(事務局)

令和5年12月、八雲ライオンズクラブより10万円のご寄附をいただき、44冊の図書購入に利用させていただいた。昭和46年から今回で46回目のご寄附となり、通算で購入図書冊数が3,624冊、寄附金額が455万円となったことを報告する。

## 5 閉会